

# 踏み跡 <My Mountains>

祖母山の南部、宮崎県の北西部にあたる所、北端が高千穂・五ヶ瀬、南端が椎葉、南北約 20Km にわたる稜線を霧立越(きったちごし)山地と言う。向坂山・白岩山・白水山など海拔 1500~1600m の山が並ぶ。さらにこの山稜の西側に、耳川をはさんで対峙しているのが向霧立越(むこうきったちごし)山地と言い、高岳・国見岳・五勇山など海拔 1600~1700m の峰が並ぶ。そしてさらに南へ進むと、宮崎・熊本の県境に球磨山地・米良山地などがある。

登山ガイドブックなどでの区分では「九州脊梁の山」と呼ばれることが多いが、学問的な区分で言えば「九州山地」の一部にあたる。

九州の山々を各種資料から調べているうちにこの「霧立越・向霧立越」という何やら意味ありげな呼称が目にとまり、興味を持った。又この辺りは椎葉・五家荘・米良荘・平家落人伝説などでしばしば耳にする土地で、一度旅してみたい土地でもあった。

交通の便は極めて悪く車を使うしかないが、車を使うと単独行では縦走できない。苦心惨澹の検討の結果、手始めに国見岳と市房山を中心にピストン山行の旅を思いついた。

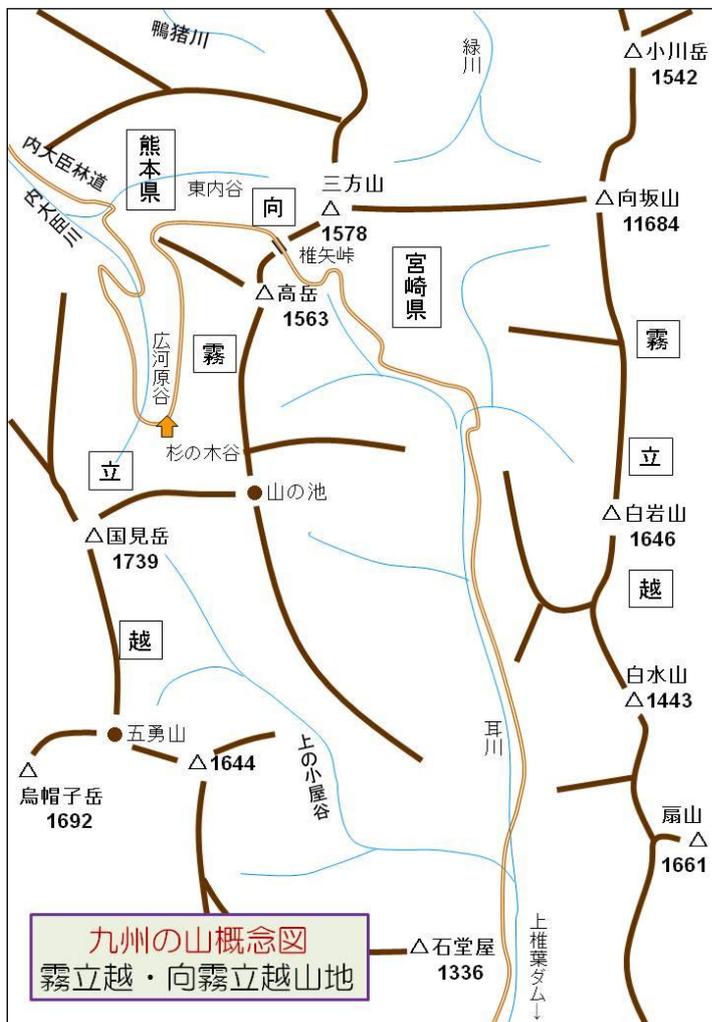
昭和58年1月1日

10時に自宅を出発。九州自動車道を南下して松橋インターへ。日本最大のアーチ型石橋である霊台橋で昼食をとり休憩。この辺りは石橋の大きなのが沢山あるようなので、ここだけではつまらないと思い、矢部村の通潤橋へも行ってみることにした。

通潤橋 13時18分。石橋見学と写真撮影のひと時を楽しんで、内大臣林道(九州横断林道)に入り最終目的地である国見岳登山口の杉の木谷へ。

杉の木谷 14時10分。身支度を整えて14時30分出発。

沢の途中でルートを見失ってしまったので、途中から強引に藪こぎで稜線へ。沢も藪もさほど深くはないので地図をしっかりと見ながら進めば大丈夫。積雪は足首を没する程度の深さ。



国見岳 (1739m) 16時30分着。この山の別名は「大国見(おおぐるみ)」。頂上には大分から来たという人が一人だけ。彼は、「人間に出会った」と言って喜んでた。阿蘇・祖母・傾・大崩・市房から霧島方面まで良く見える。眺めが素晴らしいが寒いので30分で休憩を切り上げて下山。(左写真:国見岳頂上)

登山口に18時20分に到着、今夜は造林小屋に宿泊。夕食は餅入り味噌ラーメン(みそトコトン)・オニギリ・サバの照り焼きの缶詰、デザートはココア。父の遺品のラクダのシャツを試してみたら快適、真冬

なのに夏用の寝袋でも全く寒さを感じない。

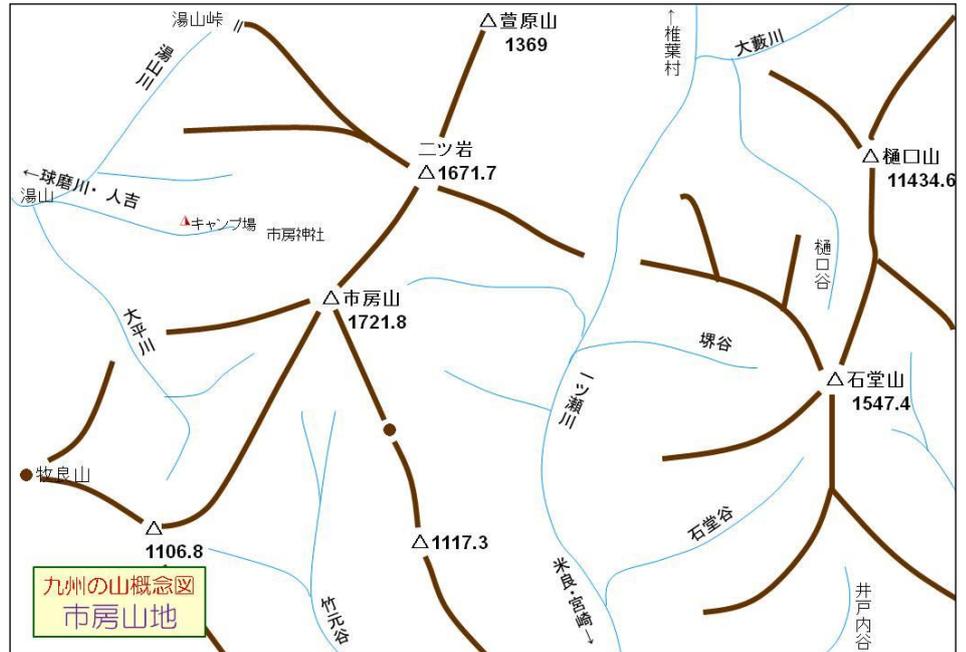
## 踏み跡 <My Mountains>

23時に目が覚めて小屋の外を見て驚いた。雲ひとつないきれいな空に明るい月が煌々と照り、新聞が読めそうな明るさで、月夜の山歩きを試してみたいくなるようだった。

昭和58年1月2日

4時30分起床、朝食は九州っ子ラーメンにココア。次のターゲット市房山へ移動してピストン後福岡へ帰るといいう忙しい日。車のエンジンをかけたが車の中でも-3度で、なかなかヒーターが効いてこない。5時20分出発。椎矢峠は寒し。椎矢峠を越えて耳川の谷へ下り、上椎葉へ。7時、早朝の上椎葉ダムを見物したがまだ暗くて写真がちゃんと写りそうもない。途中でどういうわけか道を間違えて日向市への道に入ってしまった、諸塚村の塚原ダムまで行って気が付いた。

一時間ほどのロストタイムで出足不調。



(左写真：市房山近し！)

市房キャンプ場9時50分。靴を履き替えて10時15分出発。四合目(市房神社)10時55分、カップの水飲み場があるのでありがたく頂く。この神社の主神は彦火火出見尊(ひこほほでのみこと)と言うらしい。

樹齢500年から800年と言われる杉の古木がかなり豊富に残されており、この山は荘厳さを感じる。

五合目(仏岩)11時15分、曇り空

で稜線はもう見えないし寒くなってきた。

(右写真：モアイ像を思わせる仏岩 杉の樹間から覗くと・・・)

六合目(馬の背越え)11時35分。

市房山頂上(1721.8m)13時着。小雨・小雪・強い北西風で落ち着いていられず。カメラが故障で写真をとれなくなってしまった。せっかく二度と来られそうもない市房山までたどり着いたのに・・・、多分凍結と思われる。天気が悪く見晴らしも効かないが、それでも残念無念。

14時10分、市房神社まで戻って昼食。フランスパン・さんまの蒲焼・納豆汁・デザートにココアとミカン。

14時50分出発、15時15分市房キャンプ場に帰着。ドライブの服装に着替えて15時50分出発。

湯前・人吉を通り球泉洞で鍾乳洞見物とおみやげ物色。(もちろん球磨焼酎も購入)

八代で夕食の後、八代インターから九州自動車道に入り大宰府インター経由で自宅に22時45分に帰着。

(今回の走行距離=594Km)

以上

◆後日譚：再び来る日のために山の様子をしっかりとつかんで帰ったのだが・・・

この山行の3ヶ月後に東京への転勤が決まった。

これが九州での最後の山旅になるとは思いもしなかった。

